

第5回 子どもの 健康・生活 実態調査



足立区と足立区教育委員会は、全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の将来に夢や希望が持てる地域社会の実現を目指しています。そのためには、できる限り正確に子どもの健康と生活の実態を把握することが重要と考え、令和元年10月に第5回「子どもの健康・生活実態調査」を実施しました。調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

本調査結果を踏まえ、安心して子育てができる保護者支援の充実や、家庭以外の学校や地域で子どもたちの経験や体験の機会を増やすなど、「未来へつなぐあだちプロジェクト（足立区子どもの貧困対策実施計画）」を通して、好ましい生活習慣の定着を図ってまいります。

足立区長 近藤 やよい
足立区教育委員会教育長 定野 司

調査の概要

- ◇ 調査対象：区立の小学校に在籍する1年生全員 5,130名（69校）
- ◇ 調査時期：令和元年10月
- ◇ 実施方法：無記名アンケート方式により、区が学校を通じて質問票の配付・回収
- ◇ 回答状況：有効回答4,042名（有効回答率78.8%） ※回答者の約90%は子どもの母親

調査から見えてきたこと

■ 父親・母親ともに外で働く世帯が増えるなど、家庭環境の変化が目立つ

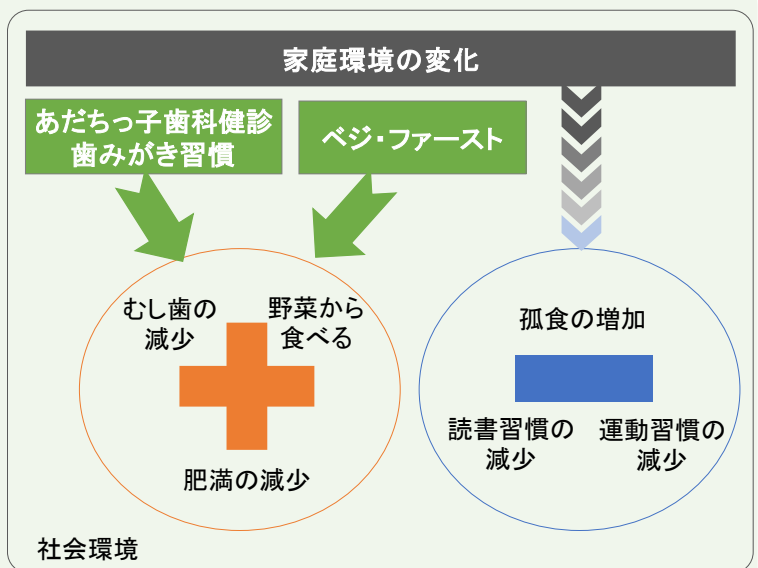
平成27年度と比べると、外で働いている母親の割合は8.5ポイント増えています（p3グラフ⑧）。また、生活困難世帯の割合は5.1ポイント減っています（p3グラフ⑦）。

■ むし歯や肥満傾向児が減少するなど、大きな成果が

平成27年度と比べると、「むし歯が1本もない」子どもの割合は4.3ポイント、「食事を野菜から食べている」子どもの割合は7.1ポイント増加し、大きく改善していることがわかりました（p2グラフ②と③）。さらに、「肥満傾向にある」子どもの割合（特に女子）も減っています（p2グラフ①）。

■ 運動や読書習慣などに課題も

平成27年度と比べると、運動習慣のない子どもの割合は1.7ポイント増え、読書習慣のある（月に4冊以上読んでいる）子どもの割合は7.4ポイントも減っています（p3グラフ⑤と⑥）。



▶ 子どもに直接届く対策が決め手

「あだちっ子歯科健診」の実施により、全ての子どもが受診できる「機会の均等」を図ったことが、むし歯の改善につながりました。また、ベジ・ファーストの広がりや、毎日給食での「いただきます。野菜から」の声かけに重点を置いた食育の効果と推察できます。子どもに直接届く対策の重要性が明らかになりました。

子どもの健康・生活の状況 (調査項目の一部抜粋)

足立区立小学校に在籍する小学1年生の健康・生活の実態は以下のとおりです。平成27年度・29年度の結果と比較を行っています。

ここでは、代表的な項目についてのみ記載しています。詳細は、足立区公式ホームページをご覧ください。

足立区 子ども健康調査 🔍 検索

(令和2年4月下旬以降に掲載予定)

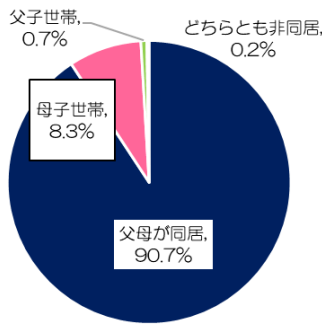
※各グラフの数字は、パーセンテージです。

世帯の構成等について

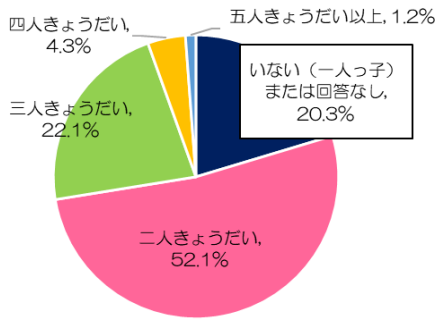
父母が同居している世帯は全体の90.7%で、一人っ子の割合は20.3%でした。入学前に通っていた施設は、私立幼稚園が全体の約半分で、

前回と比べると、私立や公設民営の保育所・こども園の割合が7.5ポイント増え31%でした(参考：平成29年度は23.5%)。

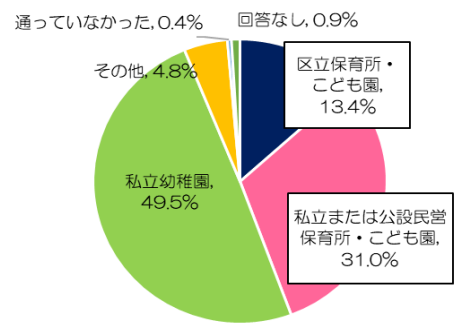
■世帯状況



■きょうだい数

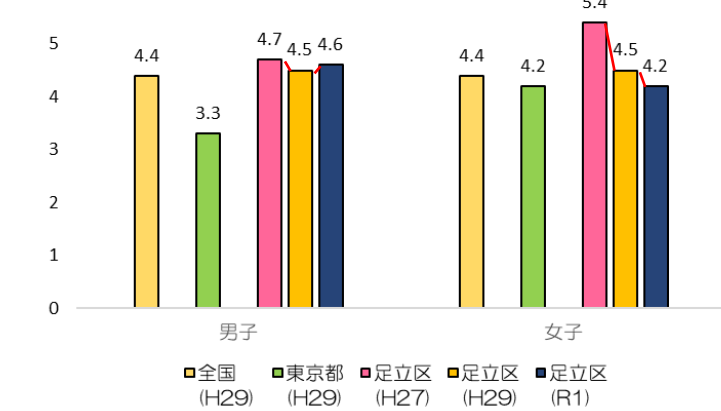


■小学校入学前の施設状況



健康について

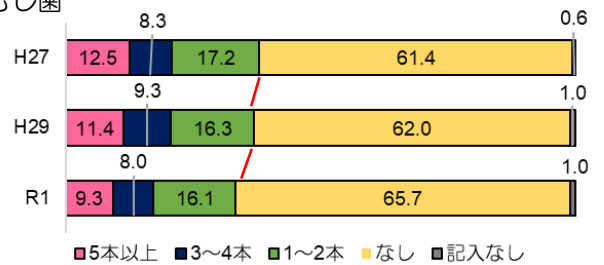
■肥満傾向



① 令和元年度の肥満傾向の子どもの割合は、男子は維持、女子は、平成27年度より1.2ポイントも低くなり、改善がみられます。

② むし歯が1本もない子どもの割合は65.7%で、平成27年度より4.3ポイントも増えました。

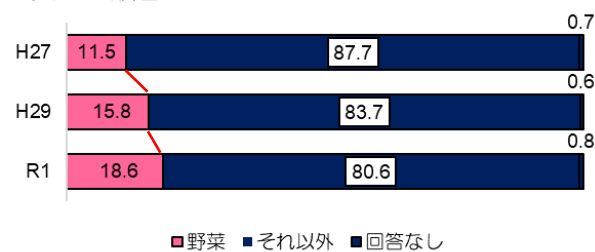
■むし歯



食生活について

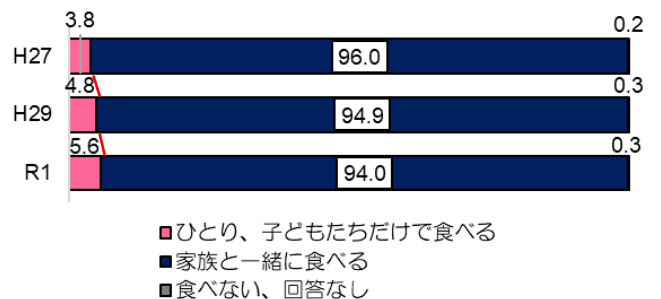
③ 食事を野菜から食べている子どもは18.6%で、年々増えてきています。

■食べる順番



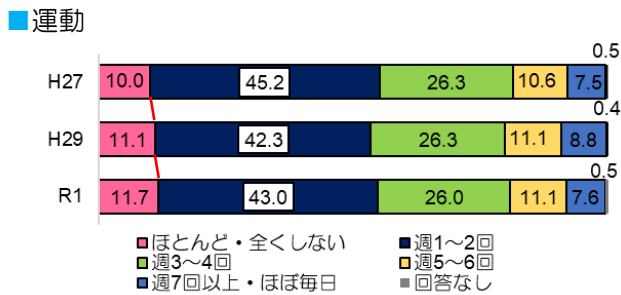
④ 夕食をひとり、または子どもたちだけで食べる世帯は5.6%で、年々増えてきています。

■夕食

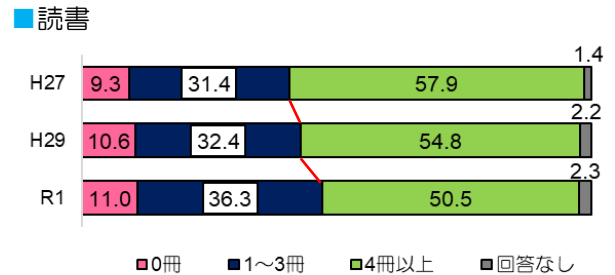


生活習慣について

⑤ 一週間でほとんど・全く運動しない子どもは11.7%で、年々少しずつ増えています。



⑥ 最近1か月で4冊以上本を読んでいる子どもは50.5%で、年々大幅に減ってきています。



子どもの健康・生活と生活困難の関連

本調査では、子どもの貧困状態を経済的な困窮だけでなく、家庭環境全体で把握すべきであると考え、次のいずれか一つでも該当する場合は

「生活困難世帯」と定義し、子どもの健康・生活に生活困難がどの程度関連があるかを調べました。

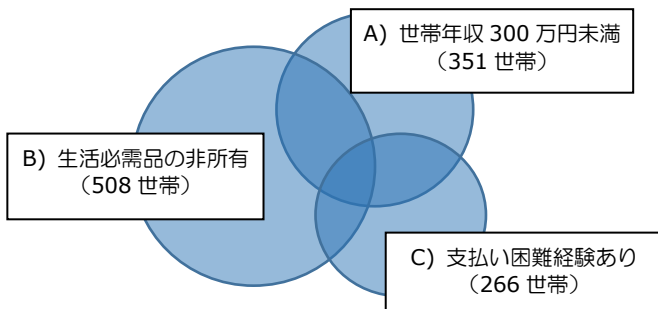
※各グラフの数字は、パーセンテージです。

生活困難と家庭環境の変化

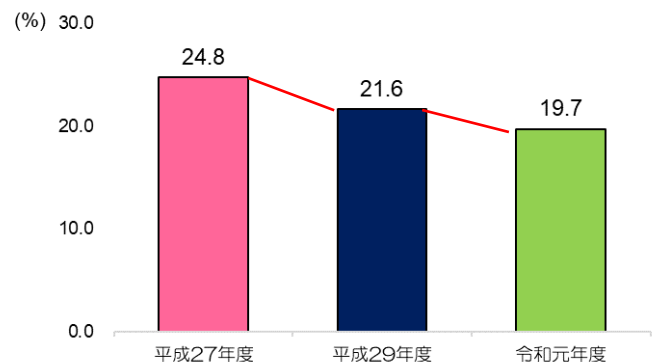
⑦ 令和元年度の「生活困難世帯」該当件数は、795世帯（19.7%）でした。「生活困難世帯」割合は、年々減ってきています。

A・B・Cのいずれか一つでも該当する場合は、「生活困難世帯」と定義します。

- A) 世帯年収300万円未満 (351世帯)
- B) 生活必需品の非所有
子どもの生活において必要と思われる物品
急な出費に備えた5万円以上の貯金がない 等
- C) 水道・ガスなどのライフラインの支払い困難経験世帯

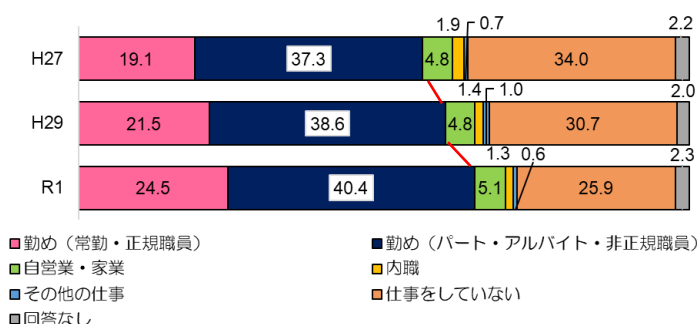


生活困難世帯の割合

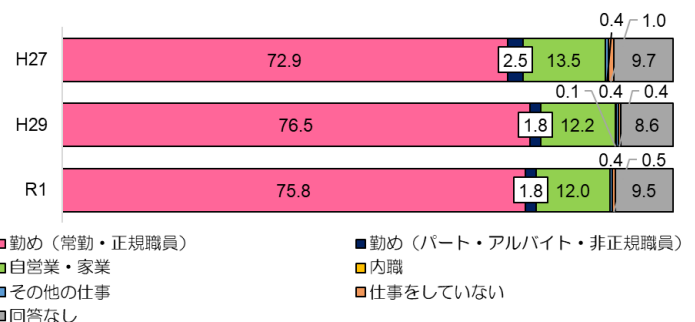


⑧ 子どもがおかれている家庭環境が変化してきました。父親、母親ともに、常勤・正規職員やパート・アルバイト・非正規職員として外で働いている世帯が年々増えてきています。

母親の就業状況



父親の就業状況

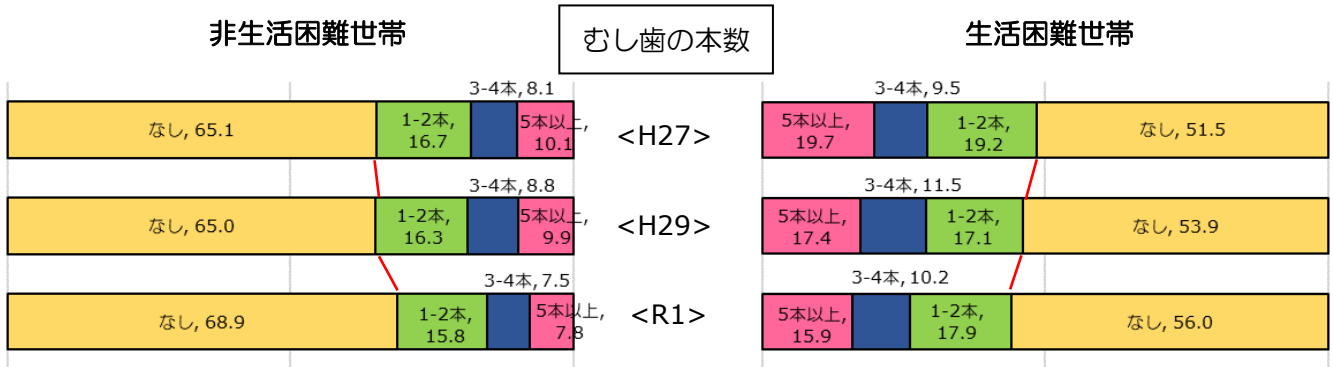


むし歯の本数が
改善

非生活困難世帯と生活困難世帯の比較

㊟ 生活困難が子どもの健康や生活にどの程度
関連があるかを調べるために、むし歯につ
いて、非生活困難世帯と生活困難世帯を比
較しました。

むし歯が1本もない子どもの割合は、
非生活困難世帯、生活困難世帯ともに
年々増え、大幅に改善されてきています。

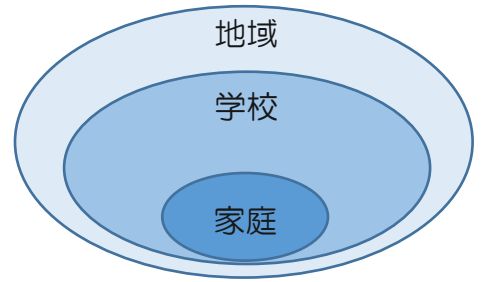


まとめ

生活習慣は家庭・学校・地域のかかわりの中で育まれます

学校給食で「いただきます。野菜から」の声かけを重点的に実施した結果、食事を野菜から食べる子どもが増えました。このように、子どもの基本的な生活習慣は、単に家庭ばかりでなく学校や地域を通して子どもに直接働きかけることでも育まれることがわかりました。

食事・運動・読書は、子どもたちの将来の健康と学力につながる大切な生活習慣です。区は、「未来へつなくあだちプロジェクト（足立区子どもの貧困対策実施計画）」をより一層充実させ、学校や地域での、子どもたちの経験・体験の機会を増やしていきます。



子どもの生活習慣が育まれる環境

ご利用ください

☀️ 「未来へつなくあだちプロジェクト」の一環として、以下の活動にも取り組んでいます。

★子ども食堂

子どもを中心とした
みんなの食と居場所



★応援アプリ

ひとり親家庭の暮らしに役立つ
情報をお届け

足立区 豆の木 で検索！

★「早うま！かんたん
ベジレシピ」

管理栄養士が考案した
かんたんベジレシピを掲載



☀️ 子どものことや心身のこと等でお悩みの方は、下記の相談窓口をご利用ください。

●こども・子育てについて悩みがあるとき
<こども支援センターげんき>
03-3852-3535

●なんとなく心や体が不調なとき
江北保健センター 03-3896-4011
千住保健センター 03-3888-4278
竹の塚保健センター 03-3855-5082
中央本町地域・保健総合支援課
03-3880-5352
東部保健センター 03-3606-4171

●生活や仕事に悩みがあるとき
<くらしとしごとの相談センター>
03-3880-5705

●パートナーからの暴力や嫌がらせの悩み
<男女参画プラザ>
女性相談(予約制) 03-3880-5223

●ひとり親家庭の方へ
<豆の木相談室> 03-3880-5932

●どんな相談でも
<よりそいホットライン>
0120-279-338



詳しい調査結果は、足立区公式ホームページをご覧ください。

※令和元年度報告書本編は、令和2年4月下旬以降に掲載予定

発行：足立区・足立区教育委員会（令和2年3月）
編集：足立区衛生部こころとからだの健康づくり課
国立大学法人東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 国際健康推進医学分野
国立研究開発法人 国立成育医療研究センター-研究所 社会医学研究部
問合：03-3880-5433（足立区衛生部こころとからだの健康づくり課）